

平成17年3月期 第3四半期の事業報告にあたって

拝啓 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

投資家の皆様からお寄せいただいております暖かいご支援に心より感謝申し上げます。

さて、当101期第3四半期（平成16年4月1日から同年12月31日まで）の9ヶ月および当四半期（平成16年10月1日から同年12月31日）の3ヶ月の連結決算につきまして、その概要をこのウェブサイトを通じて報告いたします。経営統合2年目となる今年度は、販売拠点の再編や各地でのIT統合など統合関連作業をほぼ終了し、新人事制度の一本化も完了させ今年4月より施行することとなり、統合作業の最終段階に入っております。一方で、情報機器事業におきましては重合法トナーの新プラント、オプト事業では液晶ディスプレイ用TACフィルム工場の増設など、次の飛躍に向けての積極的投資を進めております。

直近3ヶ月の業績は、前年同期間と比較しますと情報機器が伸び悩みましたが、オプト、写真関連、医療の各事業分野が健闘し、前年をやや上回る営業利益を確保いたしました。事業分野別に見ますと、主力の情報機器事業では、カラーMFP（多機能複写機）は好調ながらモノクロ中高速機での競争激化、プリンタの新製品への切り替えの影響等で伸び悩みました。成長トレンドのオプト事業におきましては、液晶ディスプレイ用のTACフィルムが堅調に推移しました。抜本的な構造改革を進めているフォトイメージング事業では、フォト事業は需要縮小傾向の中で黒字を確保し、カメラ事業では平成16年11月に全世界で発売いたしましたボディ内蔵手ぶれ補正機能搭載のデジタル一眼レフカメラ「α（アルファ）-7 デジタル」の販売好調と構造改革の成果が着実に現れております。

当第4四半期におきましては、新製品を中心とした更なる販売拡大と経費削減を図り、グループをあげて年度目標達成に向けて鋭意取り組んでまいり所存です。

投資家の皆様には、前100期第3四半期よりウェブサイトを通じて四半期業績を報告いたしておりますが、早一年が過ぎました。今後ともタイムリーな報告ができるよう努めてまいりますのでなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成17年2月

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長 岩居 文雄

## 連結財務ハイライト

▶ [決算短信に記載している数値について（平成16年3月期の変則的集計）](#) □

### 9ヶ月累計

(単位：百万円、未満切捨)

	平成17年3月期第3四半期	平成16年3月期第3四半期 期 <a href="#">(注)</a> □	増減
売上高	798,507	823,712	△25,205
営業利益	51,047	58,300	△7,253
経常利益	43,961	43,762	199
四半期純利益	16,473	25,733	△9,260

### 3ヶ月累計

(単位：百万円、未満切捨)

	平成17年3月期第3四半期	平成16年3月期第3四半期	増減
売上高	263,392	282,112	△18,720
営業利益	18,523	18,288	235
経常利益	15,794	15,318	476
四半期純利益	8,273	10,558	△2,285

### グラフ

▶ [売上高の比較](#) □

▶ [営業利益・経常利益・純利益の比較](#) □

(単位：百万円、未満切捨)

	平成17年3月期第3四半期	平成16年3月期第3四半期	増減	当中間期
総資産	984,163	1,009,244	△25,081	979,904
株主資本	346,133	341,091	5,042	342,896
株主資本比率	35.2%	33.8%	1.4%	35.0%
有利子負債	272,965	294,852	△21,887	266,388

### グラフ

▶ [有利子負債残高の推移](#) □

### 9ヶ月累計

(単位：百万円、未満切捨)

	平成17年3月期 第3四半期	平成16年3月期 第3四半期 <u>(注)</u> <small>□</small>	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,757	50,734	△23,977
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,329	△17,487	△16,842
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,693	△31,781	25,088
現金及び現金同等物の期末残高	70,766	87,652	△16,886

## 営業概況

### 経営環境と営業概況

#### 当四半期の経営環境（平成16年10月1日～同年12月31日の3ヶ月）



##### 世界経済

米国経済は、堅調な個人消費や民間企業の設備投資に支えられ、底堅い動きを示していますが、原油高騰の影響やクリスマス商戦の不振など緩やかな成長鈍化の兆しが見られます。また、欧州経済も、原油高騰やユーロ高の影響で昨年秋口頃から減速傾向にあります。中国経済は堅調に推移していますが、輸出など一部に減速感を見せ始めています。



##### 日本経済

これまで好調であったデジタル関連の最終製品は昨年夏以降、販売不振となり、それに伴い製造業の景況感は悪化しております。また、個人消費も雇用不安に伴う消費マインドの悪化により、夏場以降の消費性向は下降トレンドにあります。

#### 当四半期の為替の状況（平成16年10月1日～同年12月31日の3ヶ月）

対米ドルは106円、対ユーロは137円となり、前年同四半期と比較して、ドルは3円の円高、ユーロは8円の円安となりました。

#### 経営成績（平成16年10月1日～同年12月31日の3ヶ月）

情報機器事業では、主力のカラーMFP（多機能複写機）は引き続き好調に推移しましたが、モノクロ中高速領域での競争が激しく、また、プリンタも新製品切替えに伴い旧製品在庫の売切りを行うなど、トータルでの事業収益は伸び悩みました。オプト事業においては、光ピックアップレンズやデジタルカメラ・ビデオカメラ用のレンズユニットは在庫調整が続き販売数量は減少しましたが、液晶用TACフィルムが堅調に推移しました。フォトイメージング事業は、カラーフィルムの需要減少やデジタルカメラの価格下落など厳しい事業環境が続く中、デジタル一眼レフの販売開始や構造改革の効果もあり好転しました。

以上の状況から、当四半期の売上高はやや減少しましたが、営業利益ではわずかではありますが前年を上回る水準を確保することができました。

売上高

2,634 億円

7,985 億円  
(9ヶ月累計)

営業利益

185 億円

510 億円  
(9ヶ月累計)

経常利益

158 億円

440 億円  
(9ヶ月累計)

四半期純利益

83 億円

165 億円  
(9ヶ月累計)

#### 財政状況

\* 前期末（平成16年3月31日）からの増減

主に売上債権の139億円増加、たな卸資産の168億円増加が影響しています。

総資産

9,842 億円  
(+146 億円\*)

株主資本比率

35.2 %  
(+0.6 ポイント\*)

株主資本は3,461億円となり、株主本比率は前期末から0.6ポイント増加し35.2%となりました。

## キャッシュフロー

営業  
キャッシュフロー

268 億円  
(9ヶ月累計)

投資  
キャッシュフロー

△343 億円  
(9ヶ月累計)

フリー  
キャッシュフロー

△76 億円  
(9ヶ月累計)

財務  
キャッシュフロー

△67 億円  
(9ヶ月累計)

### 営業キャッシュフロー

売上債権・たな卸資産の増加、仕入債務の減少などによる運転資本の増加、262億円に加え、法人税等の支払額273億円が影響しました。

### 投資キャッシュフロー

主として有形固定資産の取得によるものであり、新製品ののための金型投資に加え、情報機器事業・オプト事業における生産設備の増強に係わるものと最先端の材料技術開発のための材料研究棟の建設に対するものです。

### 財務キャッシュフロー

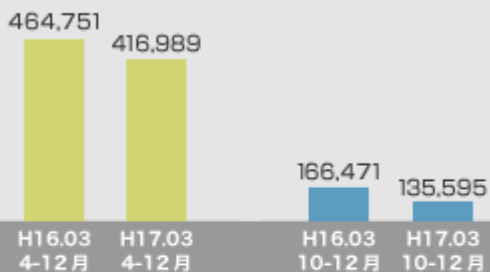
主な用途は配当金の支払額53億円です。

## セグメント別営業概況

情報機器事業：MFP（多機能複写機）、プリンタなど

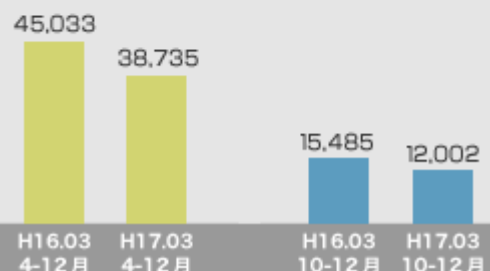
### 売上高

■ 9ヶ月累計 ■ 3ヶ月累計 (百万円)



### 営業利益

■ 9ヶ月累計 ■ 3ヶ月累計 (百万円)



### MFP事業

昨年3月から市場投入した戦略商品「bizhub（ビズハブ）C350」を中心にカラー機の販売は好調に推移し、当四半期の販売台数は前年同期比で約54%増加しました。モノクロMFPは、新製品「bizhubPRO 1050（出力速度105枚/分）」を12月から発売開始するなど成長が見込まれるプリントオンデマンド市場への取組みを強化しました。

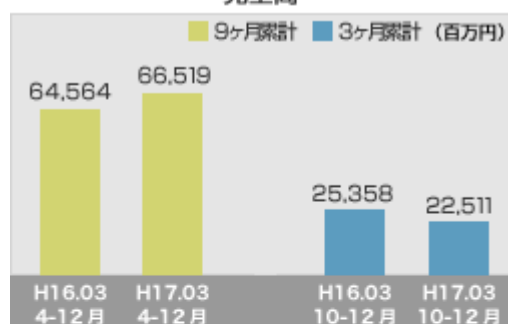
### プリンタ事業

欧米市場を中心にカラー機の競争が激化していますが、新製品「magicolor（マジカラー）2400（カラー出力速度5枚/分）」シリーズを昨年9月に発売開始し低速領域での商品力の強化を図るとともに、高速領域でも「magicolor 5430DL（同20枚/分）」を投入し、商品ラインアップの充実に努めました。なお、情報機器事業の売上高は、前年同期比で約309億円減少していますが、前年の売上には統合に伴う決算期変更による調整分（約226億円）が含

まれており、これに為替影響などを差し引いた実質ベースでは、約94億円の減少となります。

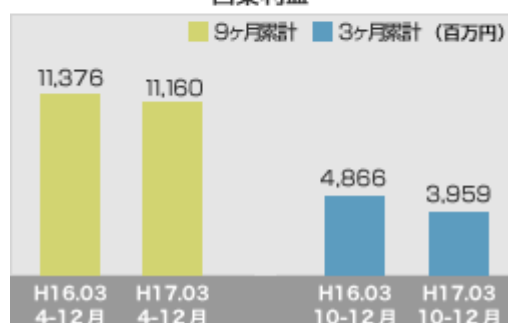
## オプト事業：光学デバイス、電子材料など

### 売上高



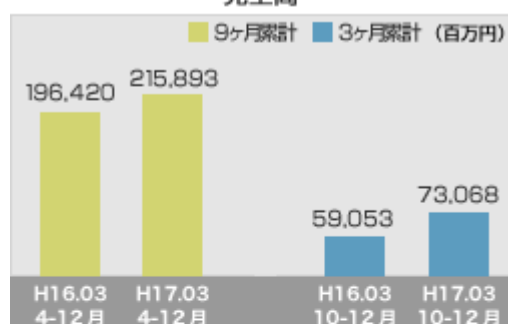
主力の光ピックアップレンズ事業は、昨年夏以降から続いた民生用機器の在庫調整期からはやや持ち直しましたが前年と比べると販売数量は減少しています。レンズユニット事業もデジタルカメラ・ビデオカメラ用ともに在庫調整の影響で販売減になっています。一方、それらを補うかたちで液晶用TACフィルムは高機能品を中心として堅調に推移しました。

### 営業利益



## フォトイメージング事業：写真感光材料、デジタルカメラ、インクジェットメディアなど

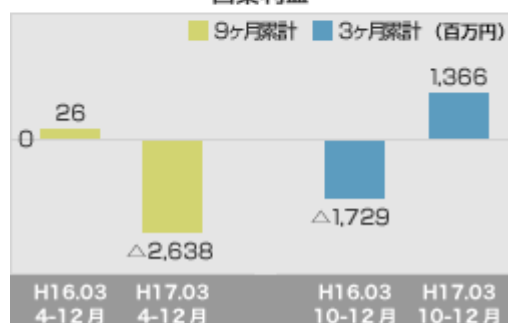
### 売上高



### フォト事業

カラーフィルム事業は、市場全体が引き続き縮小する中で、インド・アジアなどでの販売が堅調に推移し、販売数量の減少は前年同期比で約7%に留まりました。印画紙は、一部の市場での市中在庫が積み上がり販売は伸び悩みましたが、デジタルミニラボ機「R1 Super」の販売は好調に推移しています。

### 営業利益



### カメラ事業

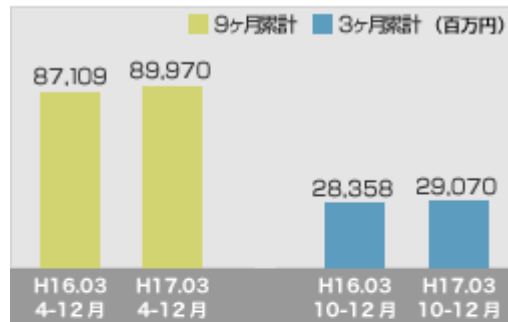
コンパクトカメラでの価格競争は厳しい状況が続いていますが、昨年11月に発売した高級デジタル一眼レフ「α(アルファ) -7 デジタル」の販売が好調であったことや構造改革の効果もあり、好転しました。

## メディカルアンドグラフィック事業：医療用・印刷用製品など

### 医療分野

デジタルX線画像読取装置「REGIUS(レジウス)」シリーズや画像記録出力装置「DRYPRO(ドライプロ)」シリーズなどのデジタル入出力機器やそれらに対応したドライフィルム

### 売上高

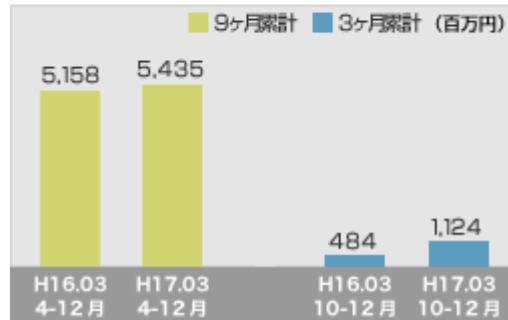


の販売が堅調に推移しました。

### 印刷分野

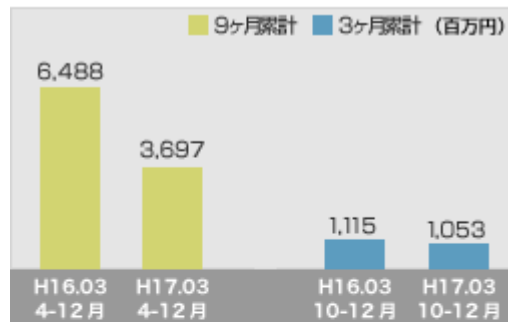
国内外市場とも印刷用フィルムに対する需要減少の影響で、フィルム販売は減少しました。

### 営業利益



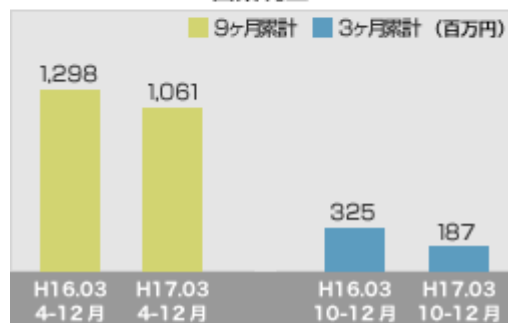
計測機器事業：色計測、三次元計測機器など

### 売上高



国内市場を中心に製造業の設備投資に減速感が始め、全般的に販売は低調に推移しました。

### 営業利益



連結財務諸表（要約）

貸借対照表

（単位：百万円、未満切捨）

勘定科目	当第3四半期 (H16.12.31現在)	前年同四半期 (H15.12.31現在)	増減	前期 (H16.3.31現在)
	金額	金額	金額	金額
現金及び預金	70,611	87,646	△17,035	83,574
受取手形及び売掛金	236,898	235,663	1,235	223,032
たな卸資産	190,736	186,551	4,185	173,949
その他流動資産	61,693	65,266	△3,572	55,213
流動資産	559,939	575,127	△15,188	535,769
有形固定資産	222,954	220,709	2,245	220,204
無形固定資産	114,772	120,600	△5,828	120,204
投資その他の資産	86,496	92,806	△6,310	93,411
固定資産	424,223	434,117	△9,894	433,820
資産合計	984,163	1,009,244	△25,081	969,589
支払手形及び買掛金	142,618	153,453	△10,835	141,783
短期借入金等	204,753	236,846	△32,092	215,035
その他流動負債	127,573	121,684	△5,888	128,023
流動負債	474,945	511,985	△37,040	484,842
社債及び長期借入金	68,211	58,005	10,205	52,916
その他固定負債	93,337	96,941	△3,603	95,160
固定負債	161,548	154,947	6,601	148,076
負債合計	636,494	666,932	△30,438	632,919
少数株主持分	1,534	1,221	313	1,242
資本合計	346,133	341,091	5,042	335,427
負債・少数株主持分	984,163	1,009,244	△25,081	969,589





連結財務諸表（要約）

損益計算書

（単位：百万円、未満切捨）

	当第3四半期 H16.4.1～H16.12.31		前年同四半期 H15.4.1～H15.12.31		増減		当四半期 H16.10.1～H16.12.31	
	金額	百分比 (%)	金額	百分比 (%)	金額	増減率 (%)	金額	百分比 (%)
売上高	798,507	100.0	823,712	100.0	△25,205	△3.1	263,392	100.0
売上原価	444,262	55.6	467,316	56.7	△23,054	△4.9	143,792	54.6
売上総利益	354,245	44.4	356,395	43.3	△2,150	△0.6	119,599	45.4
販売費及び 一般管理費	303,197	38.0	298,094	36.2	5,103	1.7	101,076	38.4
営業利益	51,047	6.4	58,300	7.1	△7,253	△12.4	18,523	7.0
営業外収益	7,023	0.9	8,555	1.0	△1,532	△17.9	△480	△0.2
営業外費用	14,109	1.8	23,093	2.8	△8,984	△38.9	2,248	0.8
経常利益	43,961	5.5	43,762	5.3	199	0.5	15,794	6.0
特別利益	507	0.1	1,376	0.2	△869	△63.1	206	0.1
特別損失	5,712	0.7	5,681	0.7	31	0.5	491	0.2
税金等調整 前四半期純利益	38,756	4.9	39,457	4.8	△701	△1.8	15,508	5.9
税金費用	21,963	2.8	13,574	1.7	8,389	61.8	6,940	2.7
少数株主利益 (損失は△)	318	0.0	150	0.0	168	112.1	295	0.1
四半期純利益	16,473	2.1	25,733	3.1	△9,260	△36.0	8,273	3.1

（注）当第3四半期との比較を行うため、前年同四半期は上半期三ノルタ分を合算して表示しております。

また、合算は単純合計であり連結消去処理は行っておりません。

▶ [決算短信に記載している数値について（平成16年3月期の変則的集計）](#) □

## 連結財務諸表（要約）

### キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円、未満切捨）

	当第3四半期 H16.4.1～H16.12.31	前年同四半期 H15.4.1～H15.12.31
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	26,757	50,734
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,329	△17,487
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,693	△31,781
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	839	△233
V. 現金及び現金同等物の増減額（減少:△）	△13,426	1,232
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	83,704	85,236
VII. 新規連結による現金及び現金同等物の増加額	488	1,183
VIII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	70,766	87,652

（注）当第3四半期との比較を行うため、前年同四半期は上半期ミノルタ分を合算して表示しております。  
また、合算は単純合計であり連結消去処理は行っておりません。

▶ [決算短信に記載している数値について（平成16年3月期の変則的集計）](#) □

## トピックス

### 経営関係



インクジェットプリンタ用プリントヘッド・テキスタイルプリンタ事業を分社・独立化



中華人民共和国において情報機器の新生産会社を設立するとともに、傘形企業の設立を申請

### 事業関係



世界最小・最軽量の高画質A4カラーレーザープリンタ「**magicolor 2400W / magicolor 2430 DL**」を発売



豊富なネットワーク機能を標準装備した高画質カラー複合機「**bizhub C450**」新発売



三菱電機インフォメーションシステムズ(株)と共同開発のドキュメントセキュリティシステム「**PageACSES**」を発売



オンラインラボ「匠プリント」サービス開始を記念した『匠フォトコンテスト』の開催



各種ディスプレイ、**LED**、照明光源などの輝度・色度を高速・高精度に測定する「色彩輝度計 **CS-200**」を発売

### 環境社会貢献



国内**31**企業の**61**サイトで、環境マネジメントシステムの国際規格「**ISO14001**のグループ統合認証」を取得



企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰制度「平成**16**年度 **PRTR**大賞」を受賞



タンチョウとその生息地の自然保護活動を支援する「第4回タンチョウチャリティーフォトコンテスト」に協賛

その他

---



デジタルカメラ4機種、高速デジタル複合機、カラーレーザープリンタが2004年度グッドデザイン賞を受賞